

クロマグロの産卵生態に関する研究 ―クロマグロ資源の持続的利用を目指して―

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産研究・教育機構 公開日: 2025-01-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田上, 英明, 毛利, 雅彦, 酒井, 健一, 下川, 伸也, 高橋, 洋, 鎌野, 忠, 秦, 一浩 メールアドレス: 所属: 水産研究・教育機構, 水産研究・教育機構, 水産研究・教育機構, 水産研究・教育機構, 水産研究・教育機構, 水産研究・教育機構
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2012579

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



クロマグロの産卵生態に関する研究

— クロマグロ資源の持続的利用を目指して —

海洋生産管理学科
田上 英明



毛利雅彦、酒井健一、下川伸也（海洋生産管理学科）、
高橋洋（生物生産学科）、鎌野忠（耕洋丸）、秦一浩（天鷹丸）

研究の目的

私たち研究グループは、漁業者の協力のもと、国際水産研究所や西海区水産研究所の研究者等と共同でクロマグロの産卵生態に関する調査研究を行っています。調査の一部は、本校の卒業論文や調査実習等としても位置づけられ、練習船耕洋丸と天鷹丸にて目視観測やソナーによる魚群の探査、リングネットや表中層トロール等による卵・稚仔魚の採集が行われています。また、遠隔操作型無人探査機（ROV）による水中撮影、航空機と自律式マルチコプター（ドローン）による空撮等も行っています。これまでの情報の蓄積や漁業者からいただいた情報によって、産卵場において、クロマグロの群れに出会えるようになってきました。近い将来、産卵行動を捉えることができるのではないかと楽しみに活動を行っています。

研究の成果と水産業等への貢献の期待

クロマグロ資源が低水準にあると推定されている中、完全養殖の技術が開発されたことで、資源回復の足がかりになることが期待されています。市場へ供給するクロマグロを自然界からの漁獲のみに頼るだけでなく、完全養殖で一定量賄えることができれば、取り控え等との効果とも相まって、資源の回復傾向が増すということも考えられています。完全養殖の生産量は、通常の養殖に比べ、まだまだ少ないですが、本研究で追及している産卵群の個体数や雄雌の比等の知見が、産卵行動を促進させるための基礎的情報として役に立つものと思われます。また、産卵群の遺伝子の情報がわかるようになれば、遺伝子情報を基にした資源量推定の精度の向上につながることも考えられます。



水産大学校 練習船
耕洋丸（総トン数：2,352ton）



小型飛行機による航空目視調査



魚群を撮影するために練習船から飛び立つ自律式マルチコプター（ドローン）

【参考文献】

水産庁プレスリリース

太平洋クロマグロ産卵場調査結果について（添付資料）<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/pdf/tenpfail140514.pdf>